

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立楊梅幼稚園)

1 平成27年度 重点評価項目

1、夢中になって遊びこむ子ども

2、感性豊かな子ども

3、基本的生活習慣の確立・たくましく生きるための体づくり

2 1回目評価

分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		自己評価	学校関係者評価
						評価日	平成27年10月19日
						分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策
						評価者(いずれかに○) 学校運営協議会 学校評議員	評価者による意見 学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
1 保育	夢中になって遊びこむ子どもの育成	1人1人の遊びの充実を目指した環境構成の充実・子どものみとり・遊び	一人一人の遊びの姿の変容日々の記録自分から遊びを見つけて遊んでいますか。	自分から遊びを見つけて遊んでいる(そう思う)保護者割合91%。一人一人の遊びの充実を目指した環境構成の充実については園内研修を進めている	⇒	・一人一人の遊びの充実や保育環境については、園内研修の充実面を改善していかたい。 ・異年齢交流・校種間連携・家庭との連携面については昨年度の取組を見直し需要が高まっていることから取り組んでいくこともあり高い評価結果がみられた。また、保護者と担任の日々のコミュニケーションが信頼へつながっている。	・保育を参観して、教師が子ども一人一人の言葉に耳を傾け、子どもの気持ちに寄り添って保育していることを感じた。
	コミュニケーション力の育成	話したくなる、聴きたくなる関係づくりの構築	自分の思いを言葉で伝えたい思いが育ってきている。人の話を聞く態度が育ってきている。	思いを言葉で伝えたい思いが育ってきている(そう思う)保護者割合94%人の話を聞く態度が育ってきている(そう思う)保護者割合94%	⇒	・一人一人の遊びの姿を丁寧に多面的にみとり夢中になって遊びこめる環境・援助について、さらに保育環境・園内研修の充実に向け取り組んでいく。 ・連携面については継続して取り組んでいく。	・子どもにとってよいと思う教育活動を自信を持って進めてほしい。
	人とかかわる力の育成	互いに認め合い支え合う集団づくり異年齢交流(園児・未就園児・小学生など)・校種間連携・地域との連携	友達とかかわることや友達と一緒にあそぶことを楽しんでいる。幼稚園は、異年齢交流・校種間・地域・家庭との連携を大事にしている。	友達とかかわることや友達と一緒にあそぶことを楽しんでいる(そう思う)保護者割合94%異年齢交流・校種間・地域・家庭との連携の大事について(そう思う)保護者割合100%	⇒	・具体的に計画し教職員の協力体制のもと実践につなげる。 ・子どもたちに必要な経験・体験を見直す。	・子どもたちは、教師の言葉のかけ方で変わる。 ・子どもも理解してくれる。子どもも真剣に向き合ってていきたい。
2 豊かな心	豊かな体験活動から豊かな感性の育成	自然環境・自然体験の充実・園外保育小動物とのふれあい・伝統文化にふれる。	飼育栽培活動を通して自然とのかかわりに興味をもつていい。	「そう思う」保護者割合100%	⇒	・園の自然環境充実については、取り組んでいるがまだやりたいができないことが多い。 ・子どもたちは、小動物とのかかわりや栽培活動に興味をもち環境にかかわっている。 ・個々の思いに寄り添い丁寧にかかわっている。	・子どもたちは、教師の言葉のかけ方で変わる。 ・子どもも理解してくれる。子どもも真剣に向き合ってていきたい。
	規範意識の育成	日々の生活や遊びの中での指導素地指導	家庭や公共の場での決まりやルールを折りにふれて話し合うようにしている。日々の保育記録の分析	家庭や公共の場での決まりやルールを折りにふれて話し合うようにしている(そう思う)保護者割合94%家庭生活の決まりを守らっしゃっている(そう思う)保護者割合91%	⇒	・具体的に計画し教職員の協力体制のもと実践につなげる。 ・子どもたちに必要な経験・体験を見直す。	・子どもたちは、教師の言葉のかけ方で変わる。 ・子どもも理解してくれる。子どもも真剣に向き合ってていきたい。
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	家庭との連携保護者への啓発個に応じた丁寧な指導、援	規則正しく生活し、自分のことは自分でできるようかかわっている。いろいろな食べ物に興味をもったり食べてみようと思えるように工夫している。	規則正しく生活し、自分のことは自分でできるようかかわっている(そう思う)保護者割合84%	⇒	・基本的生活習慣の確立については、家庭による保護者意識の違いが見られる。 ・体を動かして遊ぶことを意識して計画的に保育に取り入れている。特に年長児の保護者は幼稚園生活を通じて体力がついてきてると保護者の実感につながっている。	・家庭により意識に違いが見られる。家庭と幼稚園が連携して一緒に進めていくようにする。 ・引き続き保育計画に位置付け取り組んでいく。
	進んで体を動かして遊ぼうとする子どもの育成	小学校の中にある広い立地環境の活用計画的な保育・園外保育の充実	体を動かして遊ぶことを楽しみ、幼稚園生活を通して体力がついていく(そう思う)保護者割合100%。計画的に保育にも取り入れている。	体を動かして遊ぶことを楽しみ、幼稚園生活を通して体力がついていく(そう思う)保護者割合100%。計画的に保育にも取り入れている。	⇒	・幼小連携については、子どもたちの姿をもとに交流前後の話し合いにより教職員間で学びあうことができた。 ・子育て支援の取組では、2歳児対象の教育相談の取組について検討する。 ・情報発信では、降園時間にはらつきがあるが今後も保護者とのコミュニケーションを大事に取り組んでいく。 ・親子読書については、親子での時間が大切なことを伝えたい。	・保護者の様々な考え方がある中で、保護者への啓発に取り組んでいくことが必要。
4 独自の取組	幼小連携の充実	計画的・継続的な幼小連携の取組教師間連携の充実	教師間の交流前後の研修、子どもの具体的な姿から互いの学びあい	事前事後の話合いから具体的な姿を通して学び合うことができた。	⇒	・幼小連携については、教職員間での話し合いから学び合うことができた。 ・預かり保育の充実・教育相談の内容充実・園庭開放の充実・情報発信	・親子読書では、保護者のなかから時間をとるのが難しいという意見がでていた。それならばどんなことができるのかを考えていく。
	子育て支援の推進	預かり保育の充実・教育相談の内容充実・園庭開放の充実・情報発信	預かり保育・教育相談・園庭開放参加人数	水曜日の預かり保育利用数が当初より増えてきている。未就園児教育相談たまご組では、0、1歳児の参加が増えている。	⇒	・預かり保育については、午前保育後の利用が増えた。教育相談については、0、1歳児の登録が増えている。 ・情報発信については昨年度よりも評価が向上している。 ・親子読書については、週1回親子で絵本貸出しをしている。	・おやじの会などの取り組みを生かし、さらなる活用を呼び掛けていく。
	情報発信の充実	降園前の伝達・園の便り・ホームページ・楊梅だより・懇談会・面談など	ホームページやお便り、降園前の話などから幼稚園の遊びや生活の様子がわかりますか。	「そう思う」保護者割合100%			
	親子読書	100冊読書の親子取組、読書ノートの活用	親子で絵本を楽しんでいる。読書ノートの活用状況	親子で絵本を楽しんでいる保護者「そう思う」回答結果84%読書ノートの取組においては家庭により異なる。			